

縫い目が肌に触れない靴下の製作

1 相談内容

相談者はケアマネジャーと共に来所されました。足が浮腫で腫れ上がっており、肌の色も黒くまだらに変色している状態でした。これまでは市販靴下の口ゴムのゆるやかなタイプを使っていました。しかし下肢のむくみが顕著になり、そのゴムであっても締め付けによる痛みが出てきたとのこと。皮膚がとてもデリケートで、布団のこすれや体動時によぶつける心配があるため、寝ているときも靴下で保護するようにとの指示を受けています。そこで、足を保護する靴下を製作してもらえないかとのご相談を受けました。

2 利用者プロフィール

70代女性、リウマチと人工透析により身体障害者手帳1級、要介護度4であり、ご夫婦2人で暮らしています。普段は車いすで生活され、両足こぎで移動されています。足の裏は問題なく、それ以外の皮膚が擦れると痛みを伴うそうです。

3 対応

伸びる生地を用いて、靴下を製作しました。通常だと縫い目が内側で肌に触れ、皮膚が擦れるため、縫い目をすべて外側にして製作しました。また口ゴムは着けず、全長を少し長めにしてみました。



試作した靴下(ゆるい口ゴムあり)



完成しお渡ししたゴム無し靴下

4 結果

本人は、肌触りがよく、締め付けがないこと、脱げにくいことで重宝されています。また、生地が伸びるため、履き心地がよいとのこと。ケアマネジャーからは、「現在では作成していただいた靴下を問題なく履かれています。」との報告をいただきました。